

子どもの健康は母親の健康から

◆ 心身健康センター所長 廣瀬 政雄



マスメディアに取り上げられる健康情報は大人向けのものがほとんどで、子どもに関するものはNHKラジオの番組を除いてほとんどありません。対象者の多さとかテーマの選び易さを考えれば、大人向けのものが番組として成立しやすいことはその通りかもしれません。そこで、今回は、子どもの健康における出生前期の意味について考えてみたいと思います。

一昨年から昨年にかけて風疹の流行があり、平成14年1月14日の報道では31人の先天性風疹症候群の子どもが生まれたそうです。先天性風疹症候群は受精から妊娠3-4ヶ月後までの期間に母体が風疹に感染して、胎児に移行したウイルスによって異常がもたらされるものです。

一般的に、妊娠期間は最終月経の初日から分娩までをいい、40週間とされています。妊娠期間は通常4つの期間に分類されます。生殖細胞から配偶子（接合子）の時期を細胞期、受精から妊娠3-4ヶ月を胎芽期、受精後8週から誕生までを胎児期、22週以後-生後1週未満を周生期（周産期ともいう）などですが、各時期に応じた危険性があります。

細胞期は生殖細胞が減数分裂により精子や卵子などの配偶子を形成する時期で、遺伝子の異常は遺伝病として子孫の疾病の原因となります。血友病など多くの疾患がこれにはいります。また、減数分裂時の異常は染色体構成や染色体数の異常の原因となり、ダウン症などの疾患を起こします。胎芽期は器官の形成が進む時期で母体の薬剤摂取、感染症、あるいは化学物質や放射線に対する曝露が胎芽に異常をもたらしやすい時期です。睡眠薬のサリドマイドと多発奇形の発生がよく知られて

いますが、砒素やPCBあるいはダイオキシンなどの化学物質も原因となりえます。トキソプラズマ（原虫）のほか、風疹ウイルス、サイトメガロウイルス、ヘルペスウイルス、パルボウイルスB19など多くのウイルス感染が原因となり、中枢神経系の異常、造血組織の異常、あるいは肝臓や脾臓の腫大などを起こします。胎児期は比較的安定した時期ですが、梅毒などの原虫感染、血液型不適合あるいは胎盤機能異常により子どもに異常が発生します。周生期は子宮外生活が可能になる時期です。

中でも、胎芽期は胎児の器官形成が進む非常に重要な時期であるにもかかわらず、妊娠していることを知らずに生活している場合もあるため、特に注意が必要な時期といえます。妊娠する可能性のある女性の注意点として、接種可能なワクチンはすませておく、薬や化学物質を摂取しない、感染症の流行時には人込みを避け手洗い習慣を守るなどの注意が大切です。たばことアルコールも影響があるので控えてください。

この他、最近注目されている粉塵性大気汚染の原因であるPM2.5は肺がんや喘息の悪化の原因となることが知られていますが、PM0.1を含むディーゼル排ガスを妊娠中のマウスに2週間吸入させたところ、生まれた子マウスの脳血管に近い細胞内に超微粒子が蓄積しており、細胞の崩壊や隣接する細い血管が閉塞するなどの異常が起きることが報告されました。たばこでも同様の危険性があるかもしれません。

母性の健康は子どもの健康に直結しますし、特に妊娠の可能性のある女性はあらゆる面で健康的な生活をしてもらいたいものです。